

評価シート①

大項目「教育委員会の活動状況」

中項目	点検内容	活動指標	26年度	27年度	比較増減	自己評価結果
(1)教育委員会の構成	①構成数	人	5	5	0	適正な規模を維持している。
	②年齢別	歳	59.0	60.0	1.0	(各年度12月23日現在)
	③性別	男女比率(%)	40	40	0	適正な規模を維持している。
(2)教育委員会会議の開催状況	①会議開催数	回	34	32	△2	教育委員会会議規則で毎月22日に定例会を開催する規定に則り、毎月1回(年12回)の定例教育委員会を開催できた。 なお、昨年から2回の減となったものの、前期教育委員会も月1回の目標を達成するとともに、臨時教育委員会も概ね2か月に1回のペースで開催したことで、審議の時機を逸することなく、活発な審査の場を設定できている。
	②延出席数(教育長除く)	人	135	128	△7	延出席数の減は、開催回数の減によるものである。1回あたりの平均出席はH26 3.97人 ⇒ H27 4.0人 となっており、委員の欠席はなく開催したため問題はない。
	③教育委員会開催における運営上の工夫				0	説明に時間を要する案件の資料の事前送付、また、前期教育委員会をテーマを持った勉強会としたことによって、議論の活性化をはかることができた。
(3)教育委員会会議の情報公開の状況	①会議傍聴数	人	0	4	4	会議開催時間や場所を工夫し、参加しやすい環境づくりに努め、4名の傍聴者があった。今後とも傍聴者の増に向けて更なる改善努力が必要である。
	②議事(要)録の公表	件	0	12	12	26年度は公表ができていなかったが、27年度中に昨年度分も含めすべて公表することができた。

評価シート①

中項目	点検内容	活動 指標	26年 度	27年 度	比較増 減	自己評価結果
(4) 行政等が主催する行事への出席数(教育長除く)	①参加回数	回	168	145	△ 23	行政等が主催する行事に対して、出席努力・自主判断の区分をしている。前年度から23回減となり、活動量としては、昨年度より14%程度減少しているが出席努力に区分する比較的重要な行事への参加は昨年度並みであり、その職責を大いに果たしていると評価できる。
(5) 議会出席状況	①議会の出席状況(教育長除く)	回	32	13	△ 19	27年8月から新教育委員会制度に移行したことで、議会への出席ができなくなったため6月議会への出席状況と文教厚生委員会への出席にとどまったものの、昨年度同様、出席が必要であった会議については、委員長のみならず他の委員も全員出席し、自己研鑽に努めた。
(6) 首長との連携	①意見交換会の状況	人	4	11	7	改正地教行法に則り、総合教育会議として公式行事の形で開催した。3回の会議に延べ11名の出席で、率にして9割を超えたことは、教育委員としての役割を十分果たしているものと考ええる。
(7) 教育委員の自己研鑽	①研修会等への参加状況	回	93	130	37	研修に関し、出席努力・自主判断の区分をしている。自主判断による研修への参加回数は、平成26年度より4割ほど増加しており、活動は十分であると考える。
(8) 学校訪問	①学校訪問(A) 訪問率	%	96.7	100.0	3.3	学校訪問(A)については延べ52名の出席努力数に対し、52名と欠席がない状況であった。また、校長に異動があったり、小中一貫等新たな取り組みを行う学校について、どのような学校運営をしているのかなどの状況把握を目的に、本来出席努力としていない学校訪問(B)にも、積極的に参加した。
(9) 教育に関連する外部団体等との意見交換	①意見交換等回数	回	43	38	△ 5	関連団体の定例的な会議への出席であり、幅広い分野との意見交換が達成できている。また、市議会への出席ができなくなったことに伴い、文教厚生委員との懇親会は、市民を代表する市議会議員との貴重な意見交換の時間であり、全員出席できたことは意義深いものであった。